

季節の伝統植物 [夏]

# 伝統の朝顔

国立歴史民俗博物館

平成 27 年 7 月 28 日(火)～9 月 13 日(日)

一見すると朝顔とは思えないほど多様な珍花奇花をもつ「変化朝顔」は、江戸時代以来いく度かのブームを経て、現代に受け継がれてきました。明治には「大輪朝顔」<sup>たいりん</sup>が加わり、花の色や紋様、そして大きさが競われてきました。現在ではさらに西欧の品種が取り入れられ、新たな朝顔ブームが巻き起こっています。

くらしの植物苑では、1999 年以来、毎夏に開催している「伝統の朝顔」展<sup>まさき</sup>で、正木系統や出物系統<sup>でもの</sup>、大輪系統などの変化朝顔を、生きた歴史資料として展示してきました。このほか比較材料として、西欧やアジア周辺の近縁種も展示しています。また本館第 3 展示室(近世)では、「朝顔図譜」を中心とした近世～近代にわたる歴史資料をパネル等で展示しています。

## 変化朝顔の多様な系統

朝顔はさまざまな突然変異を起こす遺伝子を持っています。単独で形に現れることもありますが、多くは突然変異が組み合わさっています。

変化朝顔は、大きく正木系統と出物系統に分けることができます。正木系統は単純な突然変異がみられるもので、どの株からも種子ができます。出物系統は比較的变化が単純で種子が採れる株と、葉も花も変化に富んでいるかわりに種子が採れない株に分離します。また、どの系統でも、変異は双葉、本葉、花、茎とさまざまな部分に連鎖して現れるので、花が咲いていなくても、葉や茎で楽しめます。



当苑で発見された無弁花 (607 青蜻蛉九世葉無弁花牡丹)



展示風景 (くらしの植物苑 東屋)



# 正木系統

## ① 大輪 (たいりん)



114 黄斑入蟬葉栗皮茶丸咲大輪(団十郎)

「洲浜」変異と「蜻蛉葉」変異、及び葉柄に近い葉脈が裸状になる「肌脱ぎ」と呼ばれる変異を持っていて、葉は蟬葉となります。花は曜数も多くなり、花弁が大きくなります。

## ② 石畳咲 (いしだたみざき)



566 青常葉紺覆輪石畳咲

曜の間が深く切れ込んで、開花後時間がたつとそれぞれの花弁が内側に折り畳まれます。ただきれいに畳まれることは少なく、内側に巻き込まれるようになるのが普通です。

## ⑥ 桔梗咲 (ききょうざき)



778 黄桔梗渦葉水色桔梗咲八重

「渦」とよく似ていますが、「桔梗渦」という別の遺伝子の変異があらわれます。葉・花は肉厚ですが、花は花弁の先が尖って桔梗の花のような星咲です。

## ⑦ 立田 (たつた)



508 黄尾長立田葉淡青切咲

名前の由来は「立田の紅葉」です。葉が紅葉のように五つに細く裂けるのが大きな特徴です。花は花弁が五つに幅広く裂ける切咲となります。

# 出物系統

(牡丹出物だけを解説します)

## ① 車咲牡丹 (くるまざきぼたん)



1095 黄縮緬立田唐草葉白筒紅車咲牡丹

葉は五つに大きく裂け、さらに細くなってよじれます。花は「縮緬」に「立田」が入って車咲となり、中央に白い筒の台ができます。さらにこれに牡丹が入って、台の中から太い管状の鳥甲と呼ばれる花弁が吹き上がるような咲き方をするのが特徴です。

## ② 獅子咲牡丹 (ししざきぼたん)



442 黄握爪龍葉紅管弁獅子咲牡丹

株全体がうねり、葉は表面が見えなくなるほど強く内側に抱え込み、爪龍葉あるいは掬水葉と呼ばれます。花弁の先端は折り返して管状になり、形が似ていることから風鈴に形容されます。



③ 乱菊 (らんぎく)



573 青渦打込乱菊葉桃乱菊咲

株全体が不規則に乱れます。葉は不規則に深く切れ込むことが多く、ほとんどが暴れるように揺らいでいます。曜数も多く、花弁も切れ込みやすくなります。

④ 蝙蝠南天 (こうもりなんてん)



597 青渦蝙蝠南天葉淡藤紫地吹雪南天筒咲八重

葉は基本的には丸葉ですが、葉脈の先が尖ったような「蝙蝠南天葉」となります。花はひだが目立つ筒状の小輪で、写真のような文様は吹雪と呼ばれています。

⑤ 渦 (うず)



851 青渦葉鮮紅色丸咲

株全体が詰まっています。葉は肉厚で硬くなり、茎も太くてあまり巻き付きません。花も肉厚でぶりんとしているので、涼しい場所では夕方まで楽しめます。

⑧ 車咲 (くるまざき)



515 青縮縮立田雨龍葉紫車咲

「縮縮葉台咲」と「立田」が複合した変異です。五つに深く裂けた葉が、より細くなり、よじれます。花は花弁が五つに切れ込み、花筒が折れ曲がって台のように飛び出します。

⑨ 枝垂 (しだれ)



907 黄桔梗渦葉枝垂紅細覆輪桔梗咲

つるは上に登る性質を失って垂れ下り、花も下を向いて咲きます。通常は丸咲ですが、「桔梗渦」や「柳」の変異をもつものもあり、葉や花が肉厚になります。

⑩ 帯化 (たいか)



933 青斑入孔雀葉石化濃青丸咲

「石化」とも呼ばれる変異で、茎の先端の生長点が線状に形成されるため、茎がリボンのように幅広くなり、茎は枝分かれしません。花は一か所に群がって咲き、房咲と呼ばれます。

③ 柳牡丹 (やなぎぼたん)



605 青打込堺渦柳葉青采咲牡丹

葉は柳の葉のように細くなり、「渦」が入ることによって肉厚で硬くなります。花弁はナデシコの花のように細く、先が細かく切れ込みます。武将が持つ采配に似た咲き方になるので、采咲と呼んでいます。

④ 糸柳牡丹 (いとやなぎぼたん)



655 黄糸柳葉紅細切采咲牡丹

「柳」と「笹」が複合した系統です。細くよじれた糸のような葉がつき、茎との区別ができないほどになります。ナデシコのような花弁がつき、先に細かい刻みが入ります。花弁は葉ほどは細くなりません。

⑤ 渦小人 (うずこびと)



837 青渦葉渦小人紅筒白丸咲

葉は「渦」よりもっと詰まり、硬くてサボテンのようになります。成長が非常に遅く、伸びても15 cm程度にしかなりません。

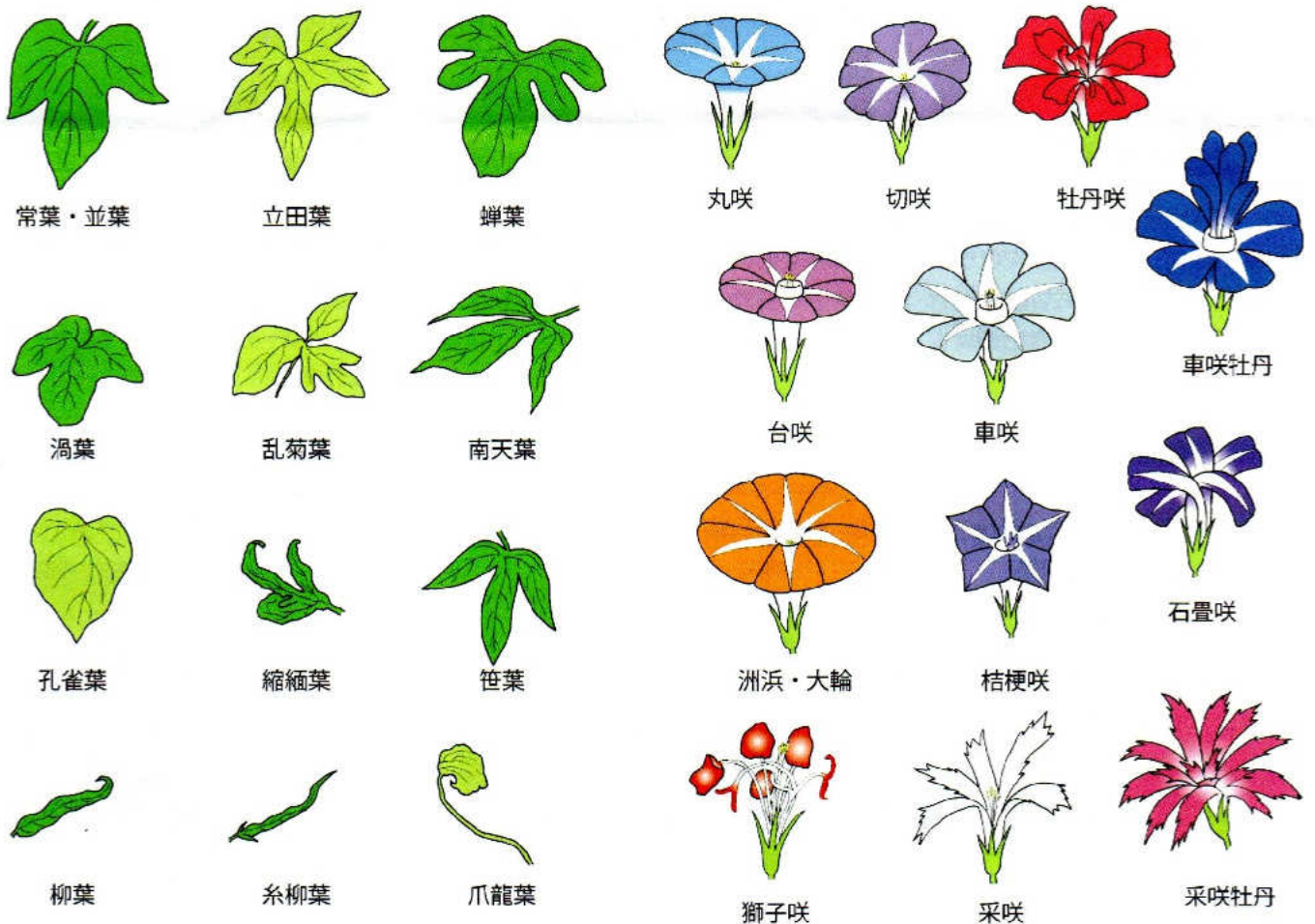


# 変化朝顔の名称

江戸時代に育まれた園芸植物の中で、変化朝顔には特異な名称がつけられています。第一次ブーム（文化・文政期）の番付表にはその走りが見られますが、第二次ブーム（嘉永・安政期）に基本ができあがります。それは葉の色、模様、質+花の色、模様、花卉の形、咲き方、花卉の重ねを順番に記述し、必要に応じて付加してゆくというものです。

たとえば「黄斑入渦柳葉紫撫子采咲牡丹」を見てみましょう。緑色の部分が葉についての記述です。黄・斑入・渦・柳葉に分解できますが、これは黄葉の斑入で、「渦」と「柳」の突然変異が入った葉であることを示しています。赤色の部分が花に関する記述です。葉の記述と同様に、紫・撫子・采咲・牡丹に分解できますが、これは紫色のナデシコのような花卉で、采咲という細かく切れた咲き方、そして多弁化した「牡丹」であることを示しています。この系統には形に関する「渦」、「柳」、「牡丹」という突然変異が組み合わさっていることがわかります。

変化朝顔にはたくさんの系統があり、主要な突然変異によって大別することができますが、上の例は「渦柳牡丹」と表記することができるのです。



さまざまな葉の変異

さまざまな花の変異